



校訓
自律・敬愛・剛健

可愛山同窓会報

発行編集

鹿児島県立川内高等学校
可愛山同窓会

所在地 〒895-0061

鹿児島県薩摩川内市御陵下町 6-3

同窓会事務局

電話 (0996) 20-2031

学 校

電話 (0996) 23-7274



創立百二十年事業を終えて

可愛山同窓会会長

中保 知大

(川高20期)



可愛山同窓会の皆様におかれましては、ご清祥にてご活躍のことと存じます。

今年には明治百五十年記念ということでNHK大河ドラマが西郷隆盛【せいごん】です。江戸時代の参勤交代に使われ、維新の志士たちが往來した薩摩街道は木場茶屋から川内川・渡唐口を経て西方までの約30キロが市内を縦断しており、西郷さんにもまつわる逸話があちこちに残っています。ドラマでは覚東ない鹿児島弁が微妙です。

昨年は創立百二十年にあたり、10年に1度の記念事業のために皆さま方から多大なるご協力をいただきました。事業内容は①記念式典・講演会、②同窓会館内に「可愛山ギャラリ」の設置、③体育トレーニング機器の充実、④奨学金制度の増資充実などでした。

4月17日(月)の創立記念日には関西可愛山同窓会会長で日弁連副会長の山口健一氏(20期)の講演会を行いました。10月28日(土)の式典当日は、『亡師・亡友碑』の前での慰霊祭に始まり、全校生徒での記念式典、記念講演会(坪田信貴氏:『ピリギャル』の原作者)と続き、祝賀会には約200名の参加がありました。

この百二十年の年に奇縁なる出来事を2つ紹介します。スターウォーズやゴジラのポスターで有名な生頼範義画伯(川内高校6期)が在学中に描いた女学生の油絵が美術室から発見されました。新聞に掲載された翌日にはモデルであった黒屋世津さん(市内在住)が名乗り出られ、画伯の1級下で東京芸大受験の勉強のためにモデルになられた経緯がわかりました。

もう一つ、新校舎が完成し、職員室の引越しの時、校長室の机から山本實彦氏(明治33年川中退)の直筆の手紙群が発見されました。同氏は大正年間雑誌『改造』を出版する中、多くの若き文学青年を支援し、私財で与謝野鉄幹・晶子夫妻を川内に招き、物理学者・アインシュタインを招聘しました。その聴講生の中にのちの湯川秀樹博士がいました。また昭和6年には政治家として暴れ川・川内川の堤防工事に着手し、継続的に平成32年度の完成を目指して進捗中です。この二人の傑人の足跡も併せて可愛山ギャラリに展示しました。

可愛山同窓会は東京・関西・福岡・熊本・宮崎・阿久根・鹿児島各地と連携し、楽しく集う誇り高い同窓会にしていきたいと思えます。今後ともご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い致します。





いあいさつ

鹿児島県立川内高等学校

校長 白石 秀逸

この四月の定期人事異動で徳之島高校から参りました白石と申します。かつて平成十三年四月から九年間、数学科の教諭として、野球部の顧問として、生徒達の進路実現と甲子園を目標に勤務した経験がございます。縁あつて2回目の勤務となりました。微力ながら誠心誠意努めて参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

あらためまして、同窓生の皆様には平素から多大なる御支援を賜っており、素心から感謝を申し上げます。おかげさまで、川高生は「文・武」で輝いております。これからは川内高校が、中学生のあこがれの高校であり続け、より高い位置で評価されることになるよう、教育活動に鋭意取り組んでいきたいと考えておりますので、引き続き御支援と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

『さて、平成三十年度の始業式で生徒達に次のようなメッセージを送りました。ピョンチャン冬季パラリンピックの一つ前の大会にあたるソチ大会閉会式での一コマです。まず、冒頭に「impossible」という英単語が映し出されます。「不可能」を意味する単語です。しばらくの間があり、「i」が大文字に変わり、「m」と「p」の間が開きます。そして大文字に変わった「I」の横に「アポストロフ」が現れます。不可能を表す「impossible」が、「I'm possible」す

なわち「私はできる」に変わったのです。

何もアクションを起こさなければ「impossible」のままですが、小文字を大文字に変えたように、必要に応じて形を変えてみたり、mとpの間をあけたように、細分化したり切り離したりする勇氣を持ち、アポストロフを付け加えたように、何かを追加する工夫が必要となるかもしれません。しかし、不屈の魂と創意工夫、そして、惜しめない努力により、私たちは不可能を可能に変えられるというメッセージです。これからこの想いを柱として皆さんにメッセージを贈ります。「I'm possible」「私はできる」「私たちはできる」「川高はできる」。私たちは「不可能を可能にできるのです。と。」

本校には、自分の夢や希望をかなえようと日々努力している生徒がいます。一人一人の生徒の進路実現のために、労苦を厭わない教職員がいます。そして、最強のPTA組織たらんと、様々な活動を通し学校に協力を惜しまない保護者がいます。そして、母校を愛し、母校の発展を願ってやまない可愛山同窓会会員の皆様があります。さらには、本校の生徒に期待を寄せ、見守り応援してくださる地域の方々があります。

更なる川内高校の発展のために、これらの思いを胸に、一丸となって精進することを誓いし、可愛山同窓会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を御祈念申し上げます。あいさつといたします。



創立百二十周年記念事業に携わって
感謝、感謝そして感激

鹿児島県立川内高等学校 前校長 藤崎 恭一

冬が例年になく寒さが厳しいものとなった分、春風を待ち焦がれていた草木も輝きを謳歌する季節となりました。

さて、私は本年三月三十一日をもって定年退職となり、川内高校校長を退任いたしました。在任中は可愛山同窓会員の皆様からの御厚情を賜り、任期中勤めあげることができたこと、心より御礼申し上げます。皆様への感謝と共に、創立百二十周年記念事業の御報告とその後の学校の近況をお伝えしたいと思っております。

同窓会実行委員会が、一年以上前から計画的に準備を進めてきた創立百二十周年記念慰霊祭・記念式典・記念講演会を昨年十月二十八日に盛大に開催することができました。川内高校生徒会は創立百二十周年記念生徒会スローガンを

不屈・向上・実現

く未来に向かって礎築く
我等川高生く

と掲げ、正門横に看板を掲示し、当日を迎えました。平成二十八年度からスタートした総合的な学習の時間「可愛山プロジェクト」

ト」の課題研究から誕生した川内高校マスケット「ぶんぶん」が体育館正面でお客様をお迎えしました。「ぶんぶん」は本校生徒が課題研究の中で薩摩川内市のPRキャラクターを考案する中で誕生したものです。一見河童の風貌ですが、川内高校で生まれたことに因んで、口は川内のS、頭頂部分には川内高校の校章の八角形部分を、背中には校章の羽根を纏い、川内大綱引きの綱を肩から担いでいます。足跡は文武両道の「文」と「武」です。この文（ぶん）と武（ぶ）に加え、羽根をブンブンさせながら未来に飛び立つという音に因んで、全校生徒の投票により「ぶんぶん」と命名されました。事務室前には身長八十センチで二等身の「ぶんぶん」が今でも笑顔で皆様をお待ちしています。式典では同窓会長様の御祝辞を中心に、明治三十年に創立し、現代まで脈々と受け継がれた本校の歴史が語られ、生徒達は在学中に周年記念行事を迎えることになった意義をかみしめてくれたようです。

記念講演会では映画「ピリギャル」で全国的に有名な坪田 熟熟長の坪田信貴氏の情熱的な教育論・人生訓を楽しく学び、感動・感激と共に生徒は志を新たにすることができました。大好評となった講演会は、実行委員会が当初から「生徒の心に残る感動的な講演をしていただける講師」を招聘したいという首尾一貫した方針から生まれてものであり、校長としては感謝の気持ちでいっぱいです。

式典終了四ヶ月後には、校舎建築に伴いやむなく伐採された銀杏の木を加工した「まな板」が約五百枚制作・販売され、大講評を得ました。三月卒業式風景と「まな板」を懐かしむ我々の思いは南日本新聞でも大きく取り上げていただき、良き記念となり、また一つ素晴らしい記憶のページが加わりました。

十二月には事務室・校長室・図書館・特別教室が設置されて、いる管理棟が完成しましたが、皆様の思い出が鏝められている三階校舎がいよいよ五月から取り壊しとなり、私も寂しい思いを押さえきれません。本稿は三月二十五日に書きましたが、川内高校への断ち切れない思いをかみしめながら、今筆を机上に下ろします。

終わりに、可愛山同窓会の益々の発展と会員の皆様方の御多幸を祈念いたし創立百二十周年記念事業の報告と共に私の退任の御挨拶とさせていただきます。

創立百二十周年
記念事業を振り返り



ごあいさつ

実行委員長 橋口 知章

私たちの母校川内高等学校は、明治三十年四月十六日川内高校の前身「鹿児島尋常中学校第一分校」として開校され、歴史と伝統を積み重ねて昨年百二十周年を迎えました。開校当時の総理大臣は松方正義から伊藤博文へと移り変わる時代であり、その前年には第一回アテネオリンピックが開催されております。そのような時代から一世紀を超える川内高校の長い歴史と伝統を想うとき、大変感慨深いものがあり、卒業生として誇りに思います。

川内高校創立百二十周年を迎えるに当たり、二年前から実行委員会を結成し協議を経てまいりました。記念事業として、川内高校に残る数々の絵画、書などを展示する可愛山同窓会館内メモリアルホールの設置、体育設備トレーニング機器の整備を重点事業とし、また川内高校奨学会の安定的な奨学活動を推進したいと考え、記念事業の一つとして盛り込みました。これらの記念事業を実行するため、全国各地の同窓生をはじめ関係の皆様からたくさんのご寄附を

頂きました。おかげさまで記念事業・祝典・記念誌発行等々の計画された全てを無事終えることができました。改めまして、皆様のご厚意に心から感謝申し上げます。また、先生方・PTAの皆様にもご支援・ご協力を頂きありがとうございました。川内高校は「自立・敬愛・剛健」を校訓に、「文武両道」を校是に掲げ、心身共に健やかな生徒の育成に努められ、四万人を超える卒業生を輩出しております。百二十年の歴史と伝統の力は、日々の学校生活の中で生き続け、その多様な青春期を本校で過ごした卒業生は、郷土鹿児島はもとより国内の外で活躍をされております。在校生諸君、この気風・校風を引き継ぎこれからの川内高校の歴史を切り拓く気概を持ち続け、伝統の力を受け継いでもらいうようお願いしてやみません。終わりに、これまで本校教育の充実発展に寄与してくださいました皆様に心から感謝するとともに、川内高校の更なる発展を祈念いたします。

創立百二十周年記念事業決算概要書

【収入の部】

平成30年2月21日現在

項目	金額	
寄付金	34,938,453	同窓会員篤志・職員協賛金
教育整備資金	5,084,000	PTA
事業収入	3,676,000	新聞広告・祝賀会協賛費（会費・祝儀）
雑収入	111	預金利息
繰入金	3,000,000	同窓会本会計より
合計	46,698,564	

【支出の部】

費目	金額	備考
総務部 部会費	会議費	247,596 実行委員会・常任委員会・幹事会
	事務費	273,027 消耗品費・通信費
	給与費	720,000 事務局書記給与費等
	渉外費	3,559,010 新聞広告・業務連絡、支部総会出席旅費
	小計	4,799,633
行事部 部会費	記念行事費	1,500,988 記念講演会・慰霊祭・文化祭等記念事業助成
	記念式典費	789,079 記念式典諸経費
	祝賀会費	991,687 会場経費・バス借上・料理等
	小計	3,281,754
事業部 部会費	記念品費	2,531,414 祝賀会（梅酒）・生徒（印鑑）・功労者記念品、まな板製材費
	記念出版費	2,447,336 記念新聞・記念誌
	川高奨学会費	10,000,000 川高奨学会へ
	同窓会運営費	2,874,349 可愛山同窓会運営費
	施設整備費	12,241,667 メモリアルホール・トレーニング機器整備
	小計	30,094,766
募金部 部会費	需用費	403,920 領収書・お礼状印刷等
	役務費	443,966 振込手数料・印紙代・郵送料
	委託料	4,674,525 募金趣意書・振込用紙等印刷送付代
	小計	5,522,411
計	43,698,564	
同窓会返済費	3,000,000	
合計	46,698,564	

演題

「学者」という仕事、
—ことばの世界、

知の世界

国立国語研究所副所長・教授
窪 蘭 晴 夫 (川高27期)



▼私の生い立ち

ただいまご紹介いただきました窪蘭晴夫です。地元の可愛小學校、川内北中学校を卒業し、昭和47年に川内高校に入学しました。今から46年前のことになります。中学時代はクラブ活動(卓球部)に、高校時代はラジオ講座を聞きながら英語の勉強に夢中になっていました。高校に入学したのは沖縄返還の年、首相が佐藤栄作から田中角栄に代わった年でした。ついこの前のような気がしますが、国立大学の授業料がこの間に約15倍に値上がりしたことを思うと時間の流れを感じます。

▼川内高校の歴史

川内高校の前身である旧制川内中学校在立されたのはそれより75年前の1897年(明治30年)だそうです。文壇では夏目漱石や正岡子規が活躍していた頃で、京都帝国大学が創立された年でもあります。第一回オリンピックがアテネで開かれたのがその前年の1896年です。川内高校は京都大学や近代オリ

ピックと同じ歴史を持つていることになり。自分の母校がこれほどの伝統を持っていることを今回初めて知り、大変誇らしく感じています。

▼学問の世界、ことばの世界

学者・研究者と呼ばれる職業に就いて36年になりますが、学問(知)の世界は無限の世界だと感じます。一つ謎が解けると新たな謎が見えてくる。ことばの場合には、その謎の大半が私たちの生活に身近なところに存在する基本的な問題です。たとえば日本語の研究では、どうして平仮名の仮名はガナと濁るのに、片仮名の仮名は濁らないのかという古典的な謎があります。また、無事の無はブなのに、無事故の無はムと発音するのはなぜでしょう。日曜日の最初の日はニチという音読みなのに、最後の日はビという訓読みになる。小山の小はコなのに、小川の川はオと読む。いずれも未解決の難問です。

一日はどの国でも24時間なのに、日本語の「二日おき」と24時間おき」は意味が異なります。「一日おきに薬を飲む」と言われたら、普通は翌日ではなく隔日に(今日飲んだら次は明後日)飲みます。「24時間おきに」と言われたら翌日飲むわけですから、一日が24時間ではないという現象が起こるわけです。時間に関連したところでは、「午前中」に対して「午後中」とは言いません。一日は午前と午後でできているのに、どうして「午後中」という表現はないのでしょうか。このように、日本人なら誰でも知っている言葉や表現の中に、面白い謎が隠れているのです。

一つの問題が解けたら、新たな謎が見えてくる。このように学問の世界は無限に続く謎の世界です。このことを20世紀の物理学者アルベルト・アインシュタインは次のような言葉で表しています。

知れば知るほど
自分の無知に気がつく。
無知を悟るほど
もつと知りたくなる。

▼方言のすすめ

私は20代の後半に3年間イギリスへ留学しましたが、留学中に英語の研究から日本語の研究に転向しました。母語である日本語のことを知らないという思いから標準語の研究に入ったのです。日本に帰ってきてからは、自分が自在に操っていることばの仕組みを知りたいという思いがさらに強くなり、鹿児島方言と鹿児島方言の研究へと研究対象が広がりました。

方言調査に行くといつも「私たちの方言が本当に役に立つのか」という質問を受けます。標準語に比べて方言は汚いもの、役に立たないものという先入観があるようで、自分たちが日常話していることばにどんな価値があるのだろうかという疑問に思われるようです。

方言には社会的な価値と学問的な価値、そして自分の言語としての個人的な価値の三つの価値があると考えています。社会的な価値とは、日本語が日本という社会の財産であるように、方言もそれぞれの地域社会の宝であるということです。そしてその宝は一たび失われると復元することのできないものです。

また、どの方言にも学問的な価値があります。たとえば鹿児島方言や甕島方言には、「複合法則」と呼ばれるアクセントの法則があります。これは複合語がその第一要素のアクセントを継承するという法則で、夏休み」と「春休み」が異なるアクセントを持つのも、「赤信号」と「青信号」のアクセントが異なるのも、この法則によるものです。古く平安時代の京都に存在したアクセント法則が、千年後の南九州の方言に見事

な形で残っているとされています。鹿児島や甕島の方言は疑問文のイントネーションにも面白い特徴を持っています。疑問文は文の最後を上げて表すというのが言語学の通説で、実際、英語や日本語の多くの方言にあてはまります。ところが鹿児島方言や甕島方言には「疑問文は文末を下げる」という全く逆の特徴が見られます。このため東京や関西の人たちが両方言の「大丈夫?」「(うん)大丈夫。」という会話を聞くと、質問とその答えをまったく逆に聞き取ってしまうのです。

方言を残したい三つの理由は、方言が自分自身であるということ、島を忘れる。島を忘れると、島の親を忘れる」という意味の言い伝えがあるそうです。日本語を忘れた人はもう日本人とは言えないように(文化人類学ではこれが「日本人」の定義だそうですが)、母方言を話せなくなると人は、その地域の人間としてのアイデンティティを失ったことになり

▼日本語でバイリンガルになる

二つの言語を話せる人は三つ目や四つ目の言語も楽に習得できるとされています。日本語の諸方言はスペイン語とポルトガル語の違いに相当するような違いを持っていますので、日本語で複数の方言を話せるようになると外国語の習得も楽になるという

推論が成り立ちます。とりわけ鹿児島人は、自然に複数の方言を習得できる恵まれた言語環境にあります。日本語で複数の方言(鹿児島弁、甕島弁、標準語)を使いこなせるようになれば、英語や中国語の習得も楽になるはず。そのためには、複数の方言を使い分けられるようにならなくてはなりません。日本語でまずバイリンガルになることが肝要です。

▼後輩の皆さんへ

これまでの人生の中で、やってよかったと思うことが二つあります。英語の勉強と留学(海外生活)です。英語を通じて世界中の人たちと話ができるようになり、海外の文化や人の生き方を学ぶこともできました。また2度の留学によって海外に多くの友人ができただけでなく、異文化を学ぶことができました。その中には日本(人)の常識と外国の常識が異なることを痛感させられることも多数ありました。日本(人)を外から眺めることによって、日本(人)の良いところと悪いところを客観的に見ることもできたと思います。

その一方で、高校時代にこうしておけばよかったと悔やまれることが一つあります。それは試験(受験)勉強です。勉強は試験のためにやるものではないと固く信じて、定期テストや大学入試の前でもマイペースで生活していましたが、今考えると惜しいことをしたと思います。勉強でも何でも、人間は一つのこと集中的に取り組むことによつて、とんでもない力(火事場の馬鹿力)を発揮します。同時に、その時培った集中力や記憶力はその後的人生に大いに役立ちます。試験の前に根を詰めるのは、長い目で見ると意味のあることだと思えます。

最後になりますが、後輩の皆さんには自分の好きなことを見つけて、それに夢中になってほしいと思います。何事でも、面白いと思うのは才能があるからです。学校の勉強だけでなく、自分が面白い、楽しいと思つたら、その思いを大事にして、そのことに没頭してほしいと思います。好きなことを生涯の仕事にできれば最高です。職業にできなくても、好きなことを多く持つことが自分の人生を豊かにしてくれると思います。そのような才能を自分で見つけて、大事に育ててほしいと願っています。

平成30年度
創立記念日講演会 感想文

3年 江口 千鞠

1週間前に新しく3年生としてのスタートをきり、受験生としての自覚を持つよう口すっぱく言われながら過ごす私たちにとって、大学受験はゴールのように思っていました。しかし、今回の講演を受けて、大学受験や大学生活を終え、学者として働いている先生のお話はとても刺激的でした。目先の受験に向け、現実と向き合わせ、勉強を強いられることがほとんどだったここ最近のお話とは対照的に、生き生きと好きなことを仕事にして日々を過ごす先生は本当に楽しそうで、大人になると大変なんだとか、そういった不安をかき消してくれました。私は、あまり成績は良くないけれど、歴史が好きです。歴史を研究して、新しい発見に目を輝かせながら生きる生活に、ひそかに憧れていました。大学の教授になりたいと考えたことも実はあります。それでもその実態を知る機会が少なかつたことから、具体的にそのイメージが湧きませんでした。しかし、今日の先生の姿を見て、私はやっぱり研究者になりたいと思いました。自分の好きなことに全力投球する先生のお話に、背中を押されたような気持ちです。本当になれるかは分からないけれど、いつかこの夢が実現するといいなと思えます。

2年 濱田 恵理子

今日は、講演会に来て下さってありがとうございます。私は「学者」のお仕事といえば「勉強をして研究を行う」という印象を持っていましたが、実際は学生に教えたり、講演を行ったり、日本の研究を海外に発信したりという幅広い仕事を行っていらっしゃるのを知り興味を持ちました。また、窪田先生は、言語について研究していらつしやり、私たちが普段あたり前のように使っている数々の言葉について「疑問」を見つけていることがとても興味深くておもしろいと思いました。私は方言は直さなくてはいけない、かつこ悪いものと思っていました。その考え自体が間違っているのだと知り、自分の考えを改めようと思えました。世界には現在およそ6,000語ありますが、100年後にはその95%がなくなってしまうかもしれないということだったので、これからは自分の祖父母が使っている方言を真似してみたり、方言を使うことを楽しんでいこうと思えました。そして、私は今英語を苦手としていて、何のために英語を学んでいるのかさえあまり分かっていませんでした。しかし、今日の講演会で、英語を学ぶときさまざまな情報を得ることができ、いろいろな国の人々と友達になることができることが分かったので、私もしっかりと目標をもって英語を頑張りたいと思います。そして、自分の才能は自分で見つけられるように視野を広くしてくださいと思います。

輝け大学一年生



鹿児島大学法文学部
島田 大輔

この春、鹿児島大学法文学部に合格しました。合格できたのは先生方を始めとする、私を支えて下さった全ての方々のおかげです。とりわけ川高奨学生への選出並びに奨学金による支援をして下さった可愛山同窓会の方々にはこの場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

私は3年生になってから部活や生徒会を引退し、受験に



広島大学教育学部
寺地 美咲

私はこの春、広島大学教育学部第一類初等教育教員養成コースに合格することができました。これは1年次からの目標であり、実現できたのは両親、先生方やたくさんの方のおかげです。本当に感謝しています。

川内高校は文武両道を掲げており、部活にも勉強にも力を入れています。そのおかげで、私は部活でも勉強でも高い目標に向かって全力で取り組むことができ、さらに応援

向かってひたすら勉強をするといった毎日でした。当然きついことや苦しいことはありました。が、学校で一緒に勉強をした友達とお互いに励まし合いながらなんとか乗り越え、最後までやり抜くことが出来ました。特にいつも明るく、学校が休みの日も一緒に勉強してくれました。クラスメイトには感謝しています。また、先生方の支えもとても大きなものでした。教科指導はもちろんのこと、進路相談や小論文指導などといったこともしていただきました。朝課外から放課後まで私たちの授業を丁寧に聞いて下さったり、質問に丁寧に答えて下さったりと常に私たちのことを一番に考えてくださいました。このような先生方の熱く丁寧な指導のおかげで、私も最後まで頑張ることができ、結果として大学合格を手にする

ことが出来ました。先生方、本当にありがとうございます。私が川内高校で過ごした3年間はきついことや悲しいことも多々ありましたが、それ以上に嬉しいことや楽しいことがあり、すごく充実した3年間でした。その中で、色々な瞬間を共有した友達はこれからの人生の中でも一生の友達です。友達が存在があったからこそ自分があると思えますし、友達がいてこそ自分であるとも思っています。また、机の上の勉強だけでなく、人間としても大きく成長することが出来た3年間だったと思います。これから、私は大学に進学しますが川内高校で学んだ「自律」「敬愛」「剛健」の精神を忘れることなく、周りの人たちに感謝をしながら、これからの自分の将来を切り拓いていきます。

団まで全力ですることができました。その分、他の人から受験勉強で少し遅れをとり、とても焦りましたが、すべてに全力で取り組んだおかげで、気持ちの切り替えができ、遅れを取り戻すために必死で勉強することができました。

また、休日は学校に来て、夜は図書館で勉強していたのですが、教室には毎週必ず頑張っている仲間がいて、刺激を受け、それが私のモチベーションにつながっていました。どんなに辛くても、一緒に頑張っている仲間がいるということが私を前向きにしてくれました。私にとってクラスメイトは欠かせない大切な存在でした。そして些細な質問にも丁寧に答え、休日まで熱心にご指導してくださった先生方にはほんとうに感謝の気持ち

川内高校にはとても素晴らしい先生方、先輩方、そして友人がいて、私はみなさんのおかげで充実した高校生活を送れました。振り返ってみますと、最高の思い出ばかりです。大学でも、皆さんへのご恩と周りの人への感謝の気持ちを忘れずに、さらなる高みを目指して日々励んでいきたいと思えます。川内高校で得た多くのものを糧に、さらに成長していきたいです。



第70回 卒業式

川内高校第70回卒業式 招待から同窓会の開催

第20期(四三会) 同窓会実行委員長
宇都 要一

川内高等学校第70回卒業式へ卒業後50周年の私達20期生に招請を頂きました。今年には明治維新百五十年という記念すべき年ですが、私達は明治維新一〇〇年の年に卒業したのだ。昨年の母校の創立百二十周年記念式典が記憶に新しい中で私たちは10年単位の節目の世代に当たるのだと改めて気づかされることでした。

明治維新百年の昭和43年に卒業した520名の私達は、50年という時の流れを経て、「生者必滅・会者定離」の定めのとおり、残念ながら鬼籍に入った方、所在不明の方も多かったのですが、卒業式・同窓会の案内から同窓生間の連絡が功を奏し、新たに34名の所在が分かり、遠くは埼玉、茨城からと、また50年ぶりに再会する旧友もいて104名が卒業式に出席しました。

当日は、可愛山同窓会館で後輩たちの初々しい受付対応に新鮮さを感じながら、久しぶりに会う同級生と遠慮がちの会話を重ね、同窓先生の先導で式場に入りました。

凛とした雰囲気伝統の重みを感じながら身の引き締まる思いの中、開式のことば、国歌斉唱、そして卒業書授与と厳粛な中に式が進行していきます。体育館に響き渡る卒業生の「ハイッ」の返事、代表による卒業証書授与と何れも礼儀正しい姿勢で、思い描いていた今どきの若者のイメージを払拭させる素晴らしいものでした。

校長式辞では、これからも①学び続ける②コミュニケーション能力を高める③夢と希望を持ち続けることと励まされ、PTA会長のわかりやすい祝辞、私達の同級生でもある可愛山同窓会会長は、母校出身の日本を代表する偉人の山本實彦氏や生頼範義画伯の話を盛り込み、卒業生に夢と希望を感じさせるものでした。在校生代表送辞と卒業生代表答辞では、インターハイで栄光を勝ち得たのは苦しい道を選んだ事によるものだとの体験談は、後輩達への励みとなるものでした。

式後は新装校舎を背景に記念写真を撮ってもらいましたが、病床を押して撮影に参加してくれたY君には頭が下がる思いでした。早めの回復を祈りたいものです。

午後には恩師山田島先生も参加する同窓会の開催です。高校から同窓会場まで連れだつて川内川を眺め大平橋を渡る面々は、望郷の思い強くしているようでした。

同窓会場は、50年前に遡のぼりクラス毎のテーブルで瞬間に時を越えて昔の友情が蘇り、会話が弾み、酒が進みました。趣向を凝らしたゲームでの賞品は、ユニークなもので、遠来から参加した人にとっては、お荷物になる迷惑な物だったのかもわかりませんが、それでも喜んで頂きました。あつという間の3時間、一人として席を立つ者もなく、最後に隣同士で手を握り、「高校三年生」を輪になって歌う頃には、完全に50年前の自分達に戻っていました。

引き続き、二次会場への移動です。午後5時過ぎと言うまだ明るい時間帯に酔っ払い集団が向田の町を闊歩して



卒後 25 年目の参列者

25年目・50年目の青春

いきます。予定より参加者が増え88名の大人数で、恩師山田島先生も加わる宴会です。飲めや歌えと50年のキャリアが生きています。完全貸切りの3時間もとうに過ぎ、明日のゴルフや肥薩おれんじ鉄道で行くおじさんおばさんおれんじ遠足は大丈夫かな？と思うほどでした。

第70回卒業式招待で蘇った青春、同級生と語り合えた喜び、そしてこのような機会を作って頂いた川内高校の先生方、可愛山同窓会関係者各位、さらにはこの同窓会開催に当たり半年にわたる5回の幹事会で準備を行った各クラス幹事の皆様方に、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

思いを新たに

(川高20期) 靱脇 量子

三月一日の第70回卒業式に私達20期も招待され、104名が参列しました。御両親の願いが込められた名前が一人一人担任の先生に呼ばれ、クラス毎に代表が校長先生から卒業証書を授与された。「自立・敬愛・剛健」の校訓を胸に刻み、次の学びのステップへと巣立っていく315名の後輩達の凛々しく清々しい横顔に心からエールを送った。同時に50年前に520名の仲間と過ごした日々を思い起こし胸が熱くなった。

同窓会では実行委員の皆様楽しい企画で盛り上がり、時の経つのを忘れた。84歳の恩師山田島先生には「...いくつになってもトキメキ...を忘るんな...」とその若さの秘訣を教わった。

翌日は「肥薩おれんじ鉄道で行くおじさんおばさんの遠足」に参加した。懐かしい駅や海岸線に思い出話を弾ませながら水俣に到着。湯の児スペース村では地ビール、ワイン、パエリアなど心ゆくまで味わった。
この貴重な2日間を心の糧として、また元気に歩んでゆけそうである。
お世話下さった皆様、本当にありがとうございました。

九回目の卒業式

(川高20期) 上之園 明子

三月一日、川内高校第70回卒業式に、川高20期の我々は卒業後五十周年として招待され、参列した。

実は川高の卒業式に参列するのは在校生としての参列を除いても九回目だ。自身の卒業予餞式、同窓職員として四回、そして子ども達の保護者として三回。

いずれも川内高校らしく、知的で厳肅な式だった。

しかし、今回の卒業式の祝辞などに「将来の不安」とか「IT化による社会の変化」、「AI」といった言葉が聞かれた。個人の熱意や努力が報われない社会でないことを祈ろう。

我々の卒業予餞式は二月二十二日だったそう。えびの地震の前兆か、降り積もった雪の中の寒い式だった。

教室の黒板横の壁板の隙間から西日が差し込み、雨の日はあちこちのバケツに雨漏りの音が響いた。そんな中でも未来には希望があり、乗り越えられない困難など無いと信じていた。特別な時間だったと今、思う。

進路指導部だより

進路指導主任 上高 恵介

「文武両道取り組み日本一」を目標に掲げ、川内高校は二〇年目の年にも前進した。進路目標の実現においても、部活動の活躍においてもこれまでの先輩方に少しも追いつき追い越さずとして川高生は努力を続けている。

今春の卒業生は、夏の全国高校総体でベスト八に勝ち進んだ男子バスケットボール部をはじめ、多くの部が、全国大会や九州大会で大活躍を見せてくれた。中には、受験勉強に励みながら総体後も活動を続け、冬の全国大会にも出場したバスケットボール部員もいた。約三週間後の大学入試センター試験も受験し、進路目標の実現を目指した。

部末所属の生徒には、他の生徒が部活動をしている時間に勉強をする「放課後活用(放活)」の時間がある。同級生が最後の大会に向けて部活動に励んでいる間に、一足早く受験勉強をスタートさせて、学年全体で「文武両道取り組み日本一」を実践している。総体が終わると、部を引退した生徒たちが放活に加わり、一気に受験に向けて加速していく。

全国大会出場や、県大会上位進出を目指していたが、それを実現できなかった部活動生ももちろん多い。しかし、最後の大会まで本気で努力を続けた生徒は受験に向けても最後まで勉強に励むことができた。多くの生徒が、放課後だけでなく休日も学校や図書館などを利用して勉強に励んだ。年末年始も、学校で自習したり教科担当に質問したりして受験の準備を進めた。これはセンター試験後も続き、二月二五日の各国公立大学の前期試験に向けて、さらに卒業式後の中期・後期日程に向けて必死に努力する姿が見られた。実際、その努力が実り、現役生の国公立大学合格者一〇五名中、後期だけで三四名が合格した。卒業生も、浪人して大学を目指したり専門学校に通い公務員試験に挑戦したりと、川高生の挑戦、たゆみなき努力はこれからもずっと続いていく。

平成30年3月 卒業生進路別合格状況 鹿児島県立川内高等学校

Table with 4 columns: 国立大学, 現, 過, 計. Lists various national universities like 北海道, 北見工業, etc.

Table with 4 columns: 私立大学, 現, 過, 計. Lists various private universities like 北海道情報, 酪農学園, etc.

Table with 4 columns: 私立大学, 現, 過, 計. Lists various private universities like 福岡工業, 福岡女学院, etc.

Table with 4 columns: 準大学校, 現, 過, 計. Lists 九州職能大学校, 準大学校計.

Table with 4 columns: 準短大校, 現, 過, 計. Lists 川内職能短大校, 準短大校計.

Table with 2 columns: 専修・各種学校等, 現. Lists various vocational and specialized schools like 鹿児島県立始良高等技術専門学校, etc.

Table with 4 columns: 公立大学, 現, 過, 計. Lists various public universities like 高崎経済, 首都大学東京, etc.

Table with 4 columns: 私立短大, 現, 過, 計. Lists various private short-term universities like 戸板女子, 京都経済, etc.

Table with 4 columns: 国公立短大, 現, 過, 計. Lists 鹿児島県立, 国公立短大計.

Table with 4 columns: 私立短大, 現, 過, 計. Lists various private short-term universities like 戸板女子, 京都経済, etc.

Table with 2 columns: 就職等, 現. Lists 自衛隊, 鹿児島県警察官, etc.

可愛山同窓会

各地区の同窓会の取り組みを取材形式でお知らせします。

東京可愛山同窓会

横だけでなく縦のつながり「絆」も強化

平成29年6月3日(土)

東海大学校友会館

参加者(来賓を含む) 160名
(若い人も増えた)

◎総会の新しい試み

・同窓生一体となって「おほら節」を踊る。東京タワーを望む素晴らしいロケーションの中、場も華やき好評だった。

・名札に「在学中の部活名・職業・趣味」など、プロフィールを追加。会話のきっかけづくりとなり、先輩後輩間でも話が弾んだといった報告もいただいた。

◎参加者拡大の取り組み

昨年より複数のサークル活動をスタート。そうした活動からSNSでの交流が深まってきた。コミュニケーションの活発化で、同窓会総会に出席してみようという気持ちに繋がることを期待。

現在活動中のサークル

- ・がらつば塾
- ・(若手主体の異業種交流会)
- ・シニアクラブ
- ・(シニア世代の健康セミナー)
- ・トレッキング同好会
- ・カラオケ同好会
- ・ゴルフ同好会

- ・囲碁同好会
- ・川内高校 気張いやんせ連 (踊り連現在110名)

今年度 第53回

東京可愛山同窓会総会

日時/平成30年6月2日(土)

12時~15時

受付開始・11時30分

総会・12時00分~12時20分

懇親会・12時30分~15時00分

場所/東海大学校友会館「阿蘇の間」

〒100-6035

千代田区霞ヶ関3-2-5

霞ヶ関ビル35階

☎03(3581)0121

連絡先/川高20期 尾曲博司

☎090(4676)3674

川高40期 柏田かおる

☎090(7949)8038

Eメール:tokyo.enoyama@gmail.com



阿久根ガラツパ会

「阿久根がらつぱ会」は旧制川内中
学時代、北薩地区(阿久根・西方方
面)から汽車通学して勉学に励んだ
先輩達が旧交を温め合うために発足
したものです。昭和34年設立当時の
写真が一昨年に見つかり、現在58年
になるかと思われる歴史ある同窓
会であります。

我が会の特徴といえば、残念なが
ら既に川中卒の方はもういらつしや
いませんが、川中入學で川高卒の方
が会長はじめ数人頑張つて参加くだ
さるほか、今は故郷を離れ東京や福
岡・熊本・鹿児島に在住の方々、そ
れに縁あつて過去に参加された方な
どストライクゾーンを広げて多くの
方々の参加をいただいております。
今年も例年の如く10月13日の第2土
曜日に開催の予定ですので多くの参
加をお待ちしております。

尚、今回福岡県在住の会員(池田
孝氏、川中49期入學・川高3期卒)
から川中時代の若き日の思い出を綴
る短歌が寄せられましたので掲載さ
せていただきます。

※大戦さなか 川中入學なりて

七十三歳 激する中に

激する入學式

(昭和24年4月 米軍沖繩に進攻
するも戦況は好転せりと励ましな
がらの入學式)

※春かすみ 戦たけなわ中

汽車通学 ゲートルに防空頭巾

背に 校門くぐる

(上川内)阿久根間約50分、登校
時は最後部車両、下校時は最前部
車両と指定)

関西可愛山同窓会

関西では、昨年から参加者増加策
のひとつとして、落語口演会を開い
ていて、今年もプロの落語家「桂団
治郎」さんに口演を依頼しています。

総会・懇談会前のひと時を、落語
で笑つて活力を得てもらおうという企
画ですが、昨年出席された皆さんに
は好評でした。今年も大いに笑いま
しょう!

一方、役員幹事会は、新たな幹事
をメンバーとして迎え入れて活性化
を図り、役員の交代も行うことで、
次のステップへの展開を目指してい
ます。

さて、関西の会員の中に、OSK
日本歌劇団に所属している女性が
いますので紹介します。

平成15年卒の55期の愛甲奈保子さ
んで、「愛瀬 光」という名前で活
躍されています。

ここ数年大阪を来訪する外国人が
急増していて、日本歌劇団では外国
人向けの舞台作りを力を入れていま
す。愛甲さんも舞台で、歌と踊りに
全力で取り組み多忙な日々を過ごし
ていらつしやるようです。

同窓のみなさん、ぜひ愛甲さんの
舞台に足を運んでいただき、同窓の
スターを応援して下さい。

福岡可愛山同窓会

創立五十周年記念事業を展開

福岡可愛山同窓会会長

新留 育郎(第17期)

福岡可愛山同窓会は昭和44年、木
元規矩男氏(中22期初代会長)、鮫島
千春氏(中39期二代目会長)を中心

に福岡在住のOB有志の皆さんで
設立され、以降、毎年1回、総会
&懇親会を開催して会員相互の交
流を重ね、今年で50回を迎える事
になりました。福岡可愛山同窓会
では、これを機に50年の足跡を振
り返り、会組織の活性化を図る事
により会員の交流を更に促進し、
物心両面にわたる母校支援の輪を
広げる目的で、次のような「福岡
可愛山同窓会五十周年記念事業」
を展開することにしました。

■五十周年記念事業の概要

1、記念式典・講演会・祝賀会

日時/本年7月1日(日)

11時00分~14時45分

場所/西日本新聞会館16階

天神スカイホール

参加費/男 6,000円

女 5,000円

25歳以下3,000円

学生 招待(無料)

(1)記念式典(11時00分)

物故者黙祷、功労者表彰

(2)記念講演会(11時30分)

☆筑前琵琶名人による弾語り

「西郷隆盛」「平家物語」

☆生徒代表が母校の今を紹介

(3)記念祝賀会(12時30分)

※椅子座食

校歌・応援歌・福引・お土産

故郷の味と香もお楽しみに!!

2、記念誌発行

(500部/12月予定)

3、母校支援事業基金の創設

(1)スポーツ文化クラブ活動支援

(2)福岡在住若手同窓生交流支援

(3)福岡可愛山同窓会報定期発行

■五十周年記念事業の寄附金募集

上記の五十周年記念事業の運

営資金として、可愛山同窓会会

員並びに母校に繋がりのある法

人組合団体の皆様方に寄附のお

願いをする事に致しました。

●一般募金(個人)
一口3,000円

●記念誌広告募金(団体法人)
A4:1/2面30,000円

A4:1/4面15,000円
A4:1/8面7,500円

A4:1/16面5,000円

●特典:五十周年記念誌無料贈呈
ご協力頂いた方のご芳名を記念誌に記載させて頂きます。

●募金方法
ゆうちょ銀行の口座にお振込下さい。振込手数料は無料。

振替口座番号:
01730(2)7798

●口座名義:福岡可愛山同窓会
●受付:平成30年7月1日迄

●お問合せ先
会長(新留)

090(5472)4881
代表幹事(牧田)

090(3019)4340
【募金ご協力お願い】

昨年の川内高等学校創立百二十周年記念事業募金の後で出費多端の折とは存じますが、福岡可愛山同窓会の五十周年記念事業の趣旨に是非ともご賛同頂きまして、温かいご支援と募金のご協力を賜りますよう、何とぞ、宜しくお願い申し上げます。

【五十周年記念行事へのご招待】
福岡県内近郊の大学に在学中の川内高校卒の学生の皆様は記念式典・講演会・祝賀会に無料招待致します。積極的なご参加を楽しみにお待ちしております。

熊本可愛山同窓会

昨熊本可愛山同窓会は、昨年度より小井手新会長のもと、平成29年度

総会を11月26日(日)、青柳にて開催致しました。総会には中俣同窓会会長をはじめ、同窓会本部からもご出席いただき、母校の近況などをお話しいただき、皆様と楽しい時間を過ごしました。

熊本可愛山同窓会では、若い方も参加しやすいように、会費千円で案内を出していますが、昨年度も参加者は有りませんでした。若い方並びに二百数名居られる熊本県在住の可愛山同窓会会員の方々の参加促進を工夫したいと思っております。

今年度も総会は例年通り、11月第3日曜日、午後5時(会場は未定)に開催予定です。身近に熊本在住の同窓の方がおられましたら、お声をかけていただければ幸いです。



鹿児島可愛山同窓会

今年11月10日(土)に、ジェイドガーデンパレスにおいて二年一度の総会・懇親会を開催します。母校からは校長先生はじめ同窓生である現職の教職員の方々が、また、本部同窓会からは役員の方々がご出席いただけます。母校や川内の最新ニュースが聞けることでしょう。

恒例の同窓生による講話は、講師募集中です。どなたか、自薦で又は他薦でも適任な方の推薦を頂くとありがたいです。

懇親会は、事務局の「盛上げ隊」が楽しいいっぱいの企画を運営してくれますので、大いに盛り上がるかと必定です。そして、大人数のご参加

加のもと、「どっさい語って、よか笑れぐらご(笑い合い)」となって、「今宵はもう、こころでよかるかい!」と満足の声でお開きとなるような懇親会にしたいと関係者一同大いに意気込んでいます。

過去の出席者の推移を分析すると「期ごとの出席者数の盛衰が即全体の増減に繋がる」傾向にあります。会員の皆様、どうか一人でも多く同窓生同士でのんで(連れ立って)ご参加下さい。

本部可愛山同窓会

昨年は、8月の第1金曜日4日午後6時30分〜ホテルオートリで開催しました。

鹿児島県立川内高等学校創立百二十周年記念式典・祝賀会の10月28日(土)開催を控えている中で、総会実行委員と創立記念事業実行委員会が平行して準備に当たっており、総会実行委員に当たると高22期、27期の幹事(以下、2と7の付く期幹事)総勢47名が末永(高22期)実行委員長の元で計画的かつ積極的に事業寄付を募りながら諸準備を行い、その日を迎えました。

総会は、来賓を含め308名の参加に同窓職員5名も会の運営に携わり、受付から司会も勤めてもらいました。総会議事も順調に進行し、懇親会に入る前に創立百二十周年記念事業実行委員会橋口実行委員長から記念事業途中経過も含めた挨拶を頂きました。

懇親会は田中様(高27期)の進行で抽選会を織り込んだ和やかな雰囲気の中で無事閉会となりました。本年度は、平成30年8月3日(金)の予定で計画的に準備を進めて参ります。

文武両道 英知を磨く 頑張る部活

演劇部

「日々の成長」



神村 美早希



演劇部は2年生4名、3年生7名の計11名で活動しています。顧問と、コーチのご指導のもと、日々練習に励んでいます。練習はストレッツや体幹トレーニングのあとに声出しをしてそれから演技の練習をします。大会前以外は即興劇やジェスチャーゲームをして、声量や台詞が無いときの動きなどを身につけてます。大会は、他校の部員と合同で作る夏季大会や勝ち上がり大会、県大会全国大会へと進める秋季大会、生徒創作の台本で生徒が審査する冬季大会の3つがあります。平成29年度の冬季大会では、優秀賞(県でベスト6)をもらうことができました。校内では1年生歓迎公演、文化祭公

演、1年生公演と3つの舞台発表をしています。まだまだ未熟な私たちですが、コーチや先生方、保護者の皆さんへの感謝の気持ち忘れず、一つ一つの公演を大事にし、日々成長しながら、少しでも完成形に近づけるよう練習に励みたいと思います。

「川高女を舞台に演劇を」

平成29年度の県高校演劇祭では、川内高等女学校の太平洋戦争中の実話をもとにした「学び舎に永遠に幸あれ」を上演しました。慣れない野良仕事や動員で授業がほとんど無い毎日を送る川高女の生徒たちが、友人や恩師の死に直面するといくものです。特に半鐘が鳴る空襲の場面は照明の赤色がゾッとするように緊迫感があり、戦争の恐ろしさが胸に迫りました。上演後観客からはすすり泣きももれ、たくさんの方からお褒めの言葉をいただきました。上演当日は脚本のモデルになった川高女の先輩方も会場に足を運んでくださり、戦時中はほんとうにこのとおりだったとお話くださいました。

この感動の舞台を是非今の川高生を始め多くの人に見てほしい、川高女の歴史を知ってほしい、文化祭で上演してはどうかと何度か生徒に語りますが、生徒は文化祭ではまた別の楽しい作品を上演したいとのことと残念です。このままでは惜しいと思わせる素晴らしい作品でした。

全国大会に何度も出場し全国2位の実績もあり、平成20年には川内高校演劇部を「星空のソネット」で全国大会に導いたコーチの大久保寛先生(本校職員OBであり川高10期)のお導きに感謝申し上げます。



放送部

「伝える」部活

寺地 菜々海



放送部は現在2年生3名、3年生4名の計7名で活動しています。

現在、放送部の主な活動内容は、校内放送や学校行事、地域行事などでのアナウンスです。どの活動においても様々な情報を「人に伝える」ことが大切です。しかし、ただ原稿を読むだけでは「人に伝える」ことにはなりません。私たちは、正確に思いを込めて「伝える」ことを追求していこうと思っています。難しさを感じ、壁にぶつかることも多いのですが、その度に原点に立ち戻り、地味に見える呼吸のトレーニングや発声練習を中心に、日々努力しています。

男子ソフトテニス部



生駒 龍揮

女子バスケットボール部



原 彩海

サッカー



松田 詩音

ダンス部



鴨井 里佳

音ナリズム+創造II 歓び

男子ソフトテニス部は3年生13名、2年生7名の計20名で顧問の神宮先生、瀬戸口先生、高味先生のご指導のもと、平日は学校のコート、御陵下公園テニスコート、土・日・祝日は総合運動公園テニスコートで日々練習に励んでいます。ソフトテニスに盛んな川内においてみんなで楽しく練習に取り組んでいます。随分前になりますが、先輩たちの戦績が、県大会団体戦準優勝、個人戦インターハイ、九州大会出場などの実績があり、伝統のある部活動の一つです。少しでも先輩たちの実績を目標に近づけるように自分たちで意見を出し合いながら練習メニューを工夫して練習をしています。また、他校との合同合宿や練習試合に積極的に出かけて、技術の向上に励んでいます。高い目標を持って、日々練習に取り組んでいます。

女子バスケットボール部は、現在3年生8名、2年生10名、1年生8名の計26名で活動しております。限られた時間の中で練習ですが、顧問の小原先生のご指導のもと、日々練習に励んでいます。バスケットボール部は、瞬発力・持久力・集中力・判断力・チームワークが必要とされるスポーツです。日頃の練習の中で、各個人がスキルアップのために目標を持って取り組んでいます。バスケットボールは、オフエンス・ディフェンスともに精神力の強さも必要とされるスポーツです。日頃から、厳しい練習の中で自分を追い込み、そして日常生活の生活態度から、自分たちが成長できるように常に意識して過ごしています。

サッカー部は、3年生13名、2年生18名、マネージャー2名に新しい1年生を迎えて日々練習に励んでいます。地区大会優勝、県大会ベスト8入りを目標とし、文武両道を掲げている学校なので練習時間は長くありませんが、短い時間で内容の濃い練習にすることを心がけています。試合を常に意識し練習のための練習にならないよう部員全員で高め合い、より実践に近い雰囲気練習に取り組んでいます。もちろん厳しい練習も多々ありますが、サッカーは技術だけでなく身体的、精神的な強さが必要不可欠な競技なので、お互い励まし合い、鼓舞し合いきついメニューも高いモチベーションで取り組める環境も必ず作ります。

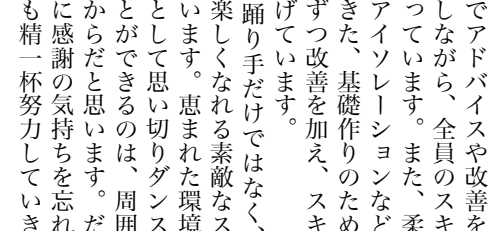
ダンス部は、3年生20名、2年生15名、1年生13名、計48名で、トレーニングセンターにて活動しています。他の部活動と比べてダンス部の歴史はまだ浅いですが、よりよいダンス部へとステップアップできるように日々の活動に励んでいます。私たちは主に文化祭や地域のイベントでダンスを披露しています。「私たちのダンスで観ている方々を笑顔にする」ことを目標とし、その目標を達成するために、振りがそろうまで何度も練習したり、部員同士でアドバイスや改善を繰り返したりしながら、全員のスキルアップを図っています。また、柔軟・筋トレ・アイソレーションなど、受け継がれてきた、基礎作りのための練習に少しずつ改善を加え、スキルアップに繋がっています。

また、私たちは先輩方同様に全国大会への出場を目標に掲げています。少ない人数ではありますが、目標は高く、努力はひたむきに学校行事や地域の行事等で温かい声をかけてくださる先生方や先輩方、地域の方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも活動していこうと思えます。

私たち女子バスケットボール部は、みんなで協力し合い、互いに声を掛け合ってチームワークを大事にすることをモットーに活動しています。その結果、先日行われた「春季九州高校バスケットボール大会鹿児島県予選大会」ではベスト4に入り、沖縄で開催された九州大会に出場することができました。これも、応援して下さる方々のご協力・ご支援のおかげだと思っています。

今までの先輩方が積み上げてきた伝統を引き継ぎ、普段お世話になっている保護者や先生方に感謝を忘れず、サッカーが当たり前のことだったり前でないという気持ちをしつかりと持ち、これから練習に精一杯取り組んで行きたいです。

ダンスは、踊り手だけではなく、観ている人も楽しくなる素敵なスポーツだと思います。恵まれた環境の中で部活動として思い切りダンスに取り組むことができるのは、周囲の支えがあるからだと思えます。だからこそ、常に感謝の気持ちを忘れず、これからも精一杯努力していきたいと思います。



第28回 OBゴルフ大会

今年のOBゴルフ大会は、昭和の日が曜日のため4月28日(土)市比野グリーンヒルGCにて開催され、県内外から昨年を上回る241名がその技を競い合いました。

5月1日(火曜日)、春田俊一大会会長(高24期)が白石秀逸校長(4月1日着任)を訪問され、川内高校「体育文化後援会」へ競技者寄附が贈呈されました。

古江、春山両教頭の同席のもと白石校長は、部活のなお一層の躍進に役立ててゆきたいとお礼の言葉があり、春田会長からは、OBゴルフの発足の経緯や今後について思いが伝えられました。

競技者は、高3期(昭和26年卒)から高45期(平成5年卒)と幅広い年代にわたっており、ゴルフの魅力が伝わるものです。団体戦は別期参加者上位3名のネットスコア合計の少ない順で決定し、個人戦も同じくネットスコアで決定され、結果は次のとおりです。

優勝 高24期
出水六男、桐野秀樹、下八尻宏二他7名：2年連続
2位 高29期 3位 高17期 4位 高18期
5位 高30期

優勝 山口 知之(高45期)
2位 出水六男(高24期)
3位 繁盛貞治(高19期)
4位 桐野秀樹(高24期)
5位 下八尻宏二(高24期)



ご寄付ありがとうございました。

(敬称略) 平成29年5月1日～平成30年4月30日まで

川内高校奨学会への寄付一覧

福岡可愛山同窓会	6,600円
関西可愛山同窓会	9,700円
可愛山同窓会総会	100,000円
県庁可愛山会	5,000円
高28期同窓会	100,000円
時吉 寛(高12期)	60,000円
高20期四三会	500,000円
窪蘭晴夫(高27期)	100,000円
川高1期同窓会	25,343円
合 計	906,643円

川高奨学生の進路先

静岡大学1名 広島大学1名 熊本大学1名
鹿児島大学3名

可愛山同窓会本部・各支部役員名簿

平成30年5月

可愛山同窓会本部 0996-20-2031 (FAX 兼用)			
顧問	山田島 稔	高17期	
会長	中俣 知大	高20期	
副会長	岩下 晃治	高15期	
"	堂元 康二	高21期	
"	橋口 知章	高26期	
"	愛川 清	高31期	
"	羽田 美由紀	高33期	
書記	稲本剛一(教諭)	高42期	
会計	末永 哲郎		
監事	上村 健一	高24期	
"	西田 一彦	高26期	
事務局長	吉留 和男	高20期	

E-mail : s-enoyama@sgr.bbiiq.jp

関西可愛山同窓会			
会長	山口 健一	高20期	
副会長	村田 靖昭	高12期	
"	有馬 洋一	高21期	
"	中野 助文	高25期	
幹事長	※ 柚木 卓郎	高20期	
会計監事	金生 佐代子	高25期	

※ 柚木 卓郎 (0745-32-5979)

宮崎可愛山同窓会			
会長	※ 浜田 澄麿	高8期	
副会長	川野 融	高18期	
"	高崎 重満	高3期	
事務局	村田 誠	高24期	

※ 浜田 澄麿 (090-1513-5449)

東京可愛山同窓会			
名誉会長	橋口 英俊	高7期	
会長	桐原 保法	高17期	
副会長	皆吉 典子	高女28期	
"	久保 信行	高10期	
"	※ 尾曲 博司	高20期	
"	皆元 正幸	高24期	
"	渡邊 泰久	高26期	
幹事長	※ 柏田 かつお	高40期	
副幹事長	徳丸 律	高21期	
"	石上 さと子	高31期	
"	宇都 正信	高44期	
"	入角 英樹	高46期	
"	八嶋 香織	高46期	
"	山下 晋平	高55期	
会計	高城 尚子	高17期	
"	植村 健二	高28期	
監査	木下 公明	高6期	
"	山下 重孝	高22期	

※ 尾曲 博司 (090-4676-3674)

※ 柏田 かつお (090-7949-8038)

熊本可愛山同窓会			
会長	小井手 清一	高17期	
代表幹事	※ 宮田 和正	高28期	
会計	鶴殿 暁子	高43期	

※ 宮田 和正 (096-343-2389)

※ は各支部連絡者

福岡可愛山同窓会			
名誉会長	福留 久大	高12期	
会長	※ 新留 育郎	高17期	
副会長	上西 治志	高17期	
"	寺地 明子	高18期	
代表幹事	牧田 隆	高20期	
副代表幹事	寺脇 之博	高34期	
"	羽子田 政則	高41期	
幹事	井上 哲	高20期	
"	田中 耕二	高21期	
"	紙屋 まり子	高24期	
"	影山 裕樹	高31期	
"	大山 健一郎	高47期	
"	大内田 佳純	高55期	
会計監査	圓林 龍二	高17期	
顧問	北 孔介	高11期	
"	香月 揚子	高11期	
"	泰平 尚信	高13期	
"	西谷 和武	高14期	

※ 新留 育郎 (090-5472-4881)

阿久根ガラッパ会			
世話役	濱田 健二	高2期	
"	折田 康彦	高3期	
"	※ 林 勝次郎	高17期	

※ 林 勝次郎 (0996-72-2075)

鹿児島可愛山同窓会			
会長	小島 政利	高14期	
副会長	上拾石 紀行	高10期	
"	武田 恭孝	高14期	
"	石走 一行	高17期	
"	斎藤 義久	高19期	
"	米盛 まり子	高19期	
"	後藤 孝行	高20期	
"	堀之内 隆	高22期	
"	愛甲 涼子	高23期	
顧問	上小鶴 貞子	高女28期	
"	桑畑 眞二	中47期	
"	橋本 幸雄	高3期	
"	安楽 満男	高12期	
事務局長	川畑 洋一	高27期	

※ 平石 征志 (危機管理防災課 099-286-2311)

県庁可愛山会			
会長	松元 良夫	高29期	
副会長	寺園 昌昭	高30期	
幹事長	宮園 博志	高33期	
幹事	大園 茂生	高33期	
"	原口 義明	高35期	
"	※ 平石 征志	高38期	
"(書記)	※ 石走 健吾	高44期	
"	徳重 朋幸	高52期	
"	堅山 英之	高57期	
会計	福重 由香	高43期	

※ 石走 健吾 (県庁国体準備課 099-286-2869)

現在の同窓職員

平成30年4月1日現在

事務	西田 一彦 (高26期)
英語	高味 浩 (高32期)
事務補助	手打 聖香 (高35期)
理科	小原 堅一 (高36期)
事務次長	西園 はるみ (高39期)
数学科	稲本 剛一 (高42期)
数学科	川原 祐加 (高48期)
事務	小平 美穂 (高50期)
数学科	中村 敬詞 (高65期)
保体	土器手 克己 (高20期)
非常勤	石塚

編集後記

可愛山同窓会報は、第51号から53号まで「鹿児島県立川内高等学校創立百二十周年特集号」として発行しました。第52号の表紙を飾った故生頼範義(高6期)画伯の「我々の所産」は、東京上野の森美術館展示(新年1月6日)2月6日開催を終えて、2月8日に母校に帰着しました。

今回の周年事業には、全国の可愛山同窓会員を始め学校関係者の数多くの篤志が可愛山ギャラリーの開館となりました。

ここには、これまで寄贈を受けた数多くの絵画が展示されています。加えて、ギャラリー前の研修室は、母校の歴史を飾る追憶の記念誌や出版物あるいは記念アルバムが展示される資料室に形を変えました。

また、川内歴史資料館には、同日帰着した生頼画「破壊される人間」も展示されています。川内の文化・芸術には非触れてみて下さい。

(可愛山同窓会事務局長 吉留和男)